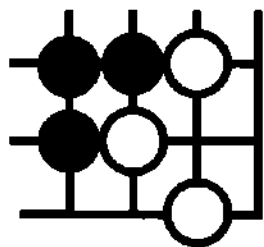


10分で読める

# 囲碁入門

○まずは打ってみよう。



## 囲碁はムズカシイ？

碁を始めようと思ったけれど分厚い入門書にウンザリ。でも、それで囲碁をあきらめるのはもったいない！

囲碁のルールは将棋や麻雀よりもずっと単純。しかし他のゲームを超える奥の深さを持っています。

市販の入門書の多くは上達のためにていねいな解説をしています。でも本当の入門者は本を読破するより打ってみる事が大切。シンプルゆえに抽象的な囲碁は実際に経験を重ねないと分りにくいのが難点です。

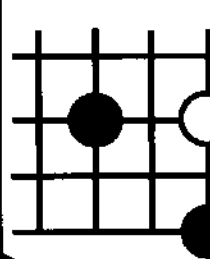
自分には向かないと誤解してしまう方が少なくありません。本書で実際に打ってから入門書を読めば、挫折なく奥深い囲碁の楽しさを実感できるでしょう。



## 1 囲碁とは？

文字通り石(碁)を囲うゲームです。  
「相手の石を取る」  
「陣地を囲う」  
この2つが複雑に絡み合って進行します。最終的に陣地の多い方が勝利となります。

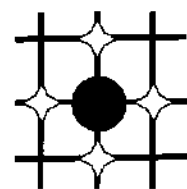
## 2 石を置いてみよう



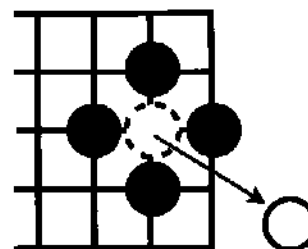
石は碁盤の線の交わる点なら、どこでも自由に置けます。黒が先番で交互に一手ずつ打ち合います。

## 3 石を取ってみよう

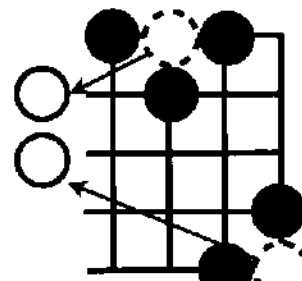
囲碁の柱の一つ「石取り」これがわかれば囲碁の半分がわかったようなもの！  
相手の石から出ている線(呼吸点・道)を、自分の石ですべて埋めれば中の石を取り上げます。



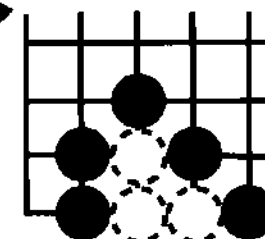
呼吸点



四点を囲まれて取り上げ(必ず取り去ります)



辺では三点、隅では二点で取れます。



まとめて取る事もできます。よく見ると白は全ての呼吸点を埋められていますね。

## 4 さあ、打ってみよう！

次の説明に入る前にまずは打ってみましょう。「陣取り」と「石取り」を同時に覚えるとうるさいのが混乱します。まずは石を取れる事が大切です。

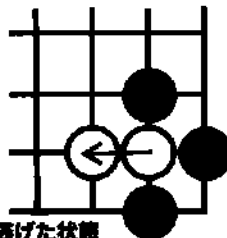


「先に3石取った方が勝ち」という石取りゲームをしてみよう。6路盤(6本の線のミニ碁盤)がオススメです。

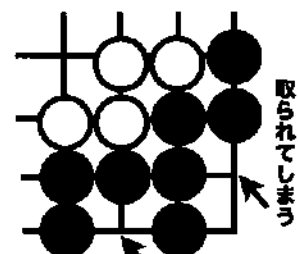
簡単なようで難しく感じるかもしれません。それはまだ目が慣れていないだけなんです。誰でも初めは見落としてしまいます。何度も繰り返せばだんだん慣れてきます。まずは打ってみましょう。

## 5 石を取られないコツ

石を囲われる前に逃げましょう。とは言っても石は動かせませんから援軍として同じ石をつなげます。石がつながると呼吸点が増えて強くなります。



白が逃げた状態



白が入れない(入っても取られる状態)



難しい.....何が面白いのか分らない.....  
多くの方が初めにそう感じます。  
囲碁は初めに少しだけ慣れが必要です。じっくり石の取り方をためしていると、いつの間にか見えてきますよ。

## あれ、取れない？

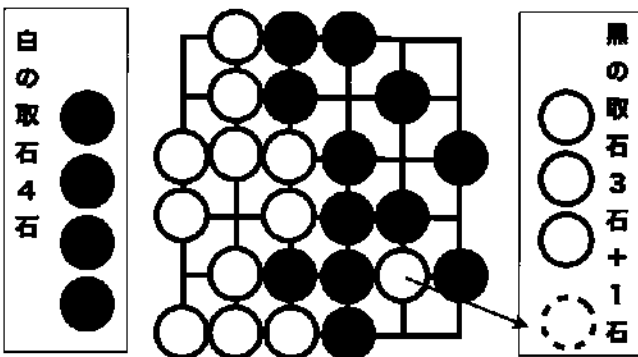
上手くなって来ると簡単には石が取れなくなります。狭い6路盤ですとやがて盤面が石で一杯になります。さらに打っていくと、打ってもすぐに取られてしまうような小さなスペースしか残らなくなります。実はそれが囲碁の終局状態なのです。

自分の陣地とは「相手が入れない」「入ってもすぐに取られてしまう」場所の事です。地(じ)と呼びます。このように石取りに慣れないと、どこが自分の地(陣地)がよくわからないのです。



わからない時は、とにかく打ってみて実感するのが大切です。一見『地』のように見えても、実際に打ち進めると相手の石が取れたり、返り討ちにあって自分の石が取られたりします。繰り返せば誰にでもわかるようになります。そして、お互いに打ちたい所が無くなった時が終局です。（お互いにパスをした時でも良いでしょう）

## 6 慣れてきた人の終局の一例



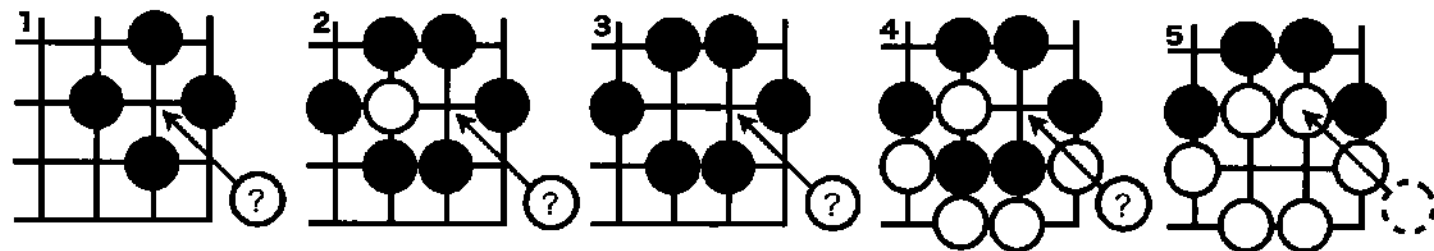
わかりやすく左右に陣地が分かれた状態です。自分の地は「自分の石で囲まれていて相手が入れない所（入ってもいずれ取られる所）」です。

白は左側の空いている所が地で4目（モク）あります。右下に白石が一つありますが、これは白が逃げられないのであきらめた石です。これは終局後に黒の『取り石』として取り上げます。

取った後で黒地を数えると9目です。すると4対9となりますが、ここで取った石が登場します。取った石の分、相手の地を減らします。するとお互い4目づつ減って0対5となり、黒の5目勝ちという結果になります。相手の石を多く取れば最終的に相手の地を減らす効果があるという事になります。

※実は上級者同士で打つと、先手の黒が少し有利になるため、ハンデ（コミと言う）を付けて対等にします。終局後に白に3目（9路盤以上は6目半が一般的）地をプラスします。しかし入門者同士はコミ無しで白黒交代で打つのが良いでしょう。

まだピンと来ない方も多いかもしれません。しかし自分には向かないと早合点するのは、もう少し待って下さい。囲碁は楽しさがわかるまでに、初めに少しだけ時間がかかります。難しいと感じても、それはまだ慣れていないだけなのです。わからない部分は置いておいて何度も打ってみてください。一旦慣れればあとは上達するだけです。疑問が出てきたら次のQ&Aをご覧ください。



すでに呼吸点をすべて囲われている所は、置いても取られる形になってしまいます。そのため置けないというルールになっています。（自分の石は置けます。つながって呼吸点が増えるという理屈です）

上図も同じ理由で置けません。いま白が黒と隣の白石と一緒に取られる形ですね。自ら呼吸点を塞ぐ事になってしまいます。間違えて置いたら取ってしまっても良いでしょう。

2図と似ていますがここは置けます。置いても白の呼吸点が一つ空いていますよ。とは言っても、黒が次に隣へ打てばすぐに取られてしまいますけれど……。

これも2図と似ていますが……よく見ると黒の2石が取れそうです！実は相手の石が取れるときは呼吸点が無くなった置いてもよいというルールになっています。黒2石が消えれば呼吸点が復活するという理屈です。

黒石を取った跡です。ずいぶん景色が変わりますね。わかりにくいときは、ご自分で実際に石を置いてみましょう。より深く理解できます。

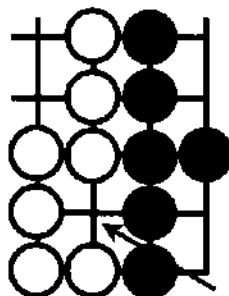
## Q1.ここには置いていいの？

### Q&A こんなときは？

囲碁はややこしいなぁと感じましたか？初めは誰でもそう感じます。文章や図だけで理解できる人は滅多にいません。とにかく打って実感してみましょう。誰でも慣れれば必ず理解できます。ここでは何度か打っていると出てくる疑問と、残りの細かいルールをいくつか説明します。慣れてくると自然とわかる事がほとんどなので、今これを読んでわからなくても全く心配いりません。

最後に発展編。右図に白は置けるでしょうか？答えは×。白の唯一の呼吸点は真ん中だけ。そこを自分で埋めてしまうとすべて黒に囲まれた状態になって全部を取られてしまうからです。

逆に黒は次ここに置けるのでしょうか？答えは○。呼吸点はありませんが白の呼吸点をすべて押さえて全部取る事が出来るので置けるのです。それでは、白はどうすればいいの？実はもうどうしようもありません。白はこうなった時点でもう取られる運命なのでした……。このように最後にまとめ取られないためには2個以上の地（眼）をつくるというワザがあるのですが……それは中級編。慣れてきたら市販の入門書を読みましょう。



## Q2.ここはどちらの地？

終局後、どちらにも囲われている部分が残る事があります。これは単なる境界線の緩衝地帯でその名も「ダメ（駄目）」どちらの地でもありません。初めのうちは分りにくいですが、まぎらわしいので終局の時に埋めてしまおうと良いでしょう。（白黒どちらでも構いません）

6路盤で慣れてきたなら市販の入門書をお求め下さい。挫折することなく上達へ導いてくれるはずです。すぐ先にすばらしい囲碁の世界がひらけています。気負わず繰り返し楽しんでみて下さいね。



## Q3.取り合いになってしまう…

何度か打っていると時折取ったり取り返したりが延々と続く形になる事があります。たとえば下の図。白が黒を取っても、次に黒に取り返されてしまいどちらかがあきらめるまで終わリません。こんな時は「すぐに取り返してはいけない」というルール「コウ（劫）のルール」があります。取り返すには一度別の場所に打ってから次に取り返します。その間に相手は取れないように石で埋める事ができるのです。入門者のうちは気にしなくてもいいですが上級者は「コウ」を使った深いワザを使います。………囲碁の基本ルールはこれでほぼ全てです。打ちながら理解していきましょう。暗記するようなものではありません。

